ちえん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。　Chi·e·n

02-03
第12回"ちえん"をつくる人々
「平塚市・岡崎地区防災教室」

04-05
地まつり探訪記
＃04「ひらつな祭」

大学から地域へ
教職員による地域貢献

06-07
つかのはら通信
大学と地域の連携活動をご紹介

学生4コマ漫画 I・MA・DO・KI
第12回 「終わらないストーリー」

チャレンジセンターNews

08
学びたいときが、まなびどき　生涯学習講座　Vol.4
「ジャズを聴く〜高音質オーディオで聴くジャズスタンダード〜」

Information

TAKE FREE
April 2020
Vol.12

東海大学地域連携紙「ちえん」（湘南版）Vol.12
発行日／2020年4月21日
発　行／東海大学地域連携センター
後　援／平塚市、秦野市、伊勢原市

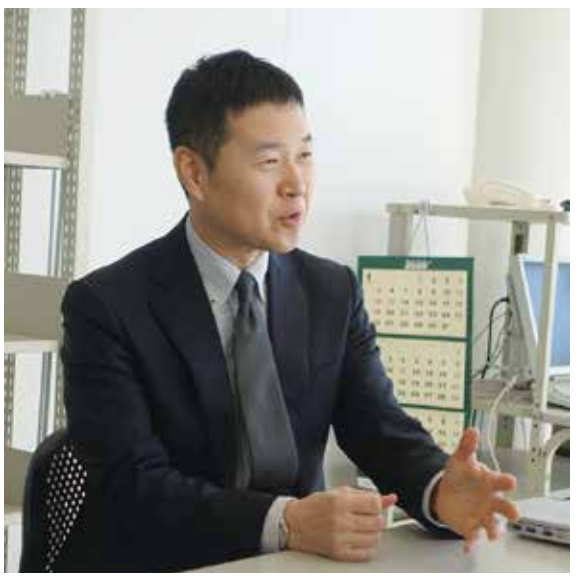
昨年7月に行われた岡崎地区でのまち歩きの様子

地域と目指す、災害に強いまちづくり
平塚市の防災を考える

第12回　“ちえん”をつくる人々
「平塚市・岡崎地区防災教室」

いつ、どこで大きな地震が起こるかもわからない日本――。備えあれば憂いなし、日ごろの防災対策が重要だ。工学部土木工学科の梶田佳孝教授はこれまで、他学部の研究室などと連携しながら湘南キャンパス近隣地域で防災意識を高める取り組みを展開している。平塚市では昨年、地域の防災イベントに参加したほか、岡崎地区の市民を対象とした防災教室を開催。大学、行政、市民、三者の視点から活動を振り返る。

取り組みを継続させ、各地域に適した防災を


工学部土木工学科　梶田佳孝教授

昨年３月に、地震・津波ワークショップ「平塚むすび塾」が行われ、文学部と合同で市民向けのワークショップを行いました。それ以前にも平塚市では、地域のイベント「ひらつな祭」で防災の取り組みに関する講演の依頼をいただいたり、防災マップを作成したりとさまざまな形で携わっています。

昨年７月に岡崎地区で実施した防災教室では、災害情報をTwitterに投稿できるアプリ「DITS※１」を使い、公民館から避難所に指定されている小学校までの道のりを歩きました。災害発生時に危険となりそうな場所などを撮影・投稿し、「DIMS※２」で防災マップを作成しました。マップは翌月に開かれた市の総合防災訓練で展示し、市民の方々にご覧いただきました。

これまでもさまざまな地域で防災の啓発活動をしてきましたが、平塚市民の皆さんは比較的防災意識が高いように感じています。市内在住の女性によるボランティア団体「女性防災クラブ平塚パワーズ」も頼もしい存在。今は団体や自治会がそれぞれ実施している取り組みをつなげていくのも、大学の役割の一つだと考えています。

私たちは、To-Collaboプログラム大学推進プロジェクト「安心安全事業」※３を契機に、地域と連携したさまざまな防災の取り組みを実施してきましたが、これからも継続していくために新たな仕組みを考えていく必要があると考えています。啓発する対象も広げて、多世代に呼びかけていきたいですね。中学校や高校などとも連携して定期的にワークショップを開催することが理想です。

キャンパス近隣は山も海もあり、災害のタイプは異なります。それぞれの場所に適した防災を考える必要がありますし、地域連携で課題に取り組む機会は、我々にとっても勉強になります。学生も学外の人とかかわることでコミュニケーション力が培われ、成長することもできるので、教育の一環としても続けていきたいと思います。

「平塚市岡崎地区　災害情報防災マップ」
投稿された情報をもとに作成された地図

タブレット端末で簡単に投稿体験。東海大学の学生がサポート

平塚市総合防災訓練・防災フェアでの集合写真

防災を“自分ごと”として考える機会を創出していく

岡崎地区で行われた防災教室での様子

「平塚むすび塾」に梶田先生をお呼びしたのは、平塚商業高校で研究室の学生とともに防災を呼びかける活動をされていると聞いたのがきっかけです。私たちは毎年、どのような形で市民に向けた防災の啓発活動をしていくべきかを考えているので、地域に根づいた活動をしている学生に参加してもらいたいと思い、お声がけしました。

「平塚むすび塾」を契機に、今年度は岡崎地区での防災教室、市の総合防災訓練など、梶田先生の研究室に協力いただく機会を多く設けることができました。自治会の方が学生とかかわる機会はそうそうないので、皆さんとても楽しんで参加されていた印象です。

自分が住んでいる地域を防災の視点で見て歩くと気づきがあるでしょうし、DITS、DIMSを使うことで、年配の方はあまりなじみのないSNSに触れるきっかけになり、とても意義のある取り組みだったと感じています。

ただ、防災への意識はまだまだ地区ごとに差があります。その差を埋めるためにも定期的に啓発活動を行い、多くの市民に防災を“自分ごと”として考えてもらう機会を創出していきたいですね。各自治体が主体となって行う訓練に各自治会から協力していただくことで、さらなる地域防災活動の活性化につながると考えています。私たち職員が協力させていただくのはもちろん、その逆に市が主催する訓練に各自治会から協力していただくことで、さらなる地域防災活動の活性化につながると思います。

地域ごとに災害リスクは異なります。どのような訓練が必要なのか、互いに相談しながら練っていきたいと考えています。

その中で、大学の力もぜひお借りしたい。東海大学には多くの学部学科があり、さまざまな専門分野の先生方がいらっしゃるので、どのように防災につなげていけるのかを一緒に考えていきたい。DITS・DIMSが市内で普及することで、災害対策に有効な情報が得られるので、岡崎地区での活動を第２弾、第３弾とさまざまな地区で実施していけたらと思います。

平塚市災害対策課　丸山優さん

地区ごとに異なる防災意識の差を埋めよう

私が参画している「地域推進会議」は、地域のさまざまな活動を活性化させることを目的に、2009年に発足しました。私は防災を担当し、地域の防災訓練を実施してきました。「女性防災クラブ平塚パワーズ」にも協力してもらい、起震車体験、救出訓練などを行い、岡崎地区からは約250名が参加します。昨年は市の総合防災訓練も行い、各地区から多くの人が集いました。

岡崎地区には自治会が９つあり、ふじみ野団地がある自治会は特に防災意識が高く、独自に防災講座や安否確認訓練も行っています。ただ、やはり地区ごとに意識の差があるのが現状で、備蓄倉庫の棚卸しくらいしかしていない地区もあります。そうした差を埋めることも課題の一つです。なので、市や大学が実施する取り組みを通じて、一人ひとりの意識が高くなればと期待しています。

梶田先生に来ていただいた岡崎地区の防災教室は、普段歩きなれた道を“防災”の視点を持ってあらためて通ることで、「こんな危険があったのか」と気づくきっかけになりました。平塚は地区によって山や坂が多く、高齢化も進んでいます。災害が起こったとき、ちゃんと避難所までたどり着けるのか確認する機会はとても大切だと感じました。

ただ、当日一緒に組んだ方がアプリにとても興味を示していて、私はなかなかiPadを触れなくて……撮影したり投稿したりできなかったので、ぜひもう一度実施してもらいたい（笑）。彼は最後、自分のスマートフォンにDITSのアプリを登録していたので、啓発という意味では成功だったのでしょう。地元の課題を発見し、防災への意識を根づかせるためにも、大学の力を借りて引き続き取り組んでいきたいですね。

岡崎地区地域活動推進会議　防災部会会長　青沼護さん

岡崎地区で行われた「DITS の投稿とまち歩き」の様子

DITS・DIMSを活用して情報収集「平塚市・岡崎地区防災教室」

梶田教授の研究室では昨年7月29日、神奈川県平塚市・岡崎地区で防災教室を開催し、地域住民６名が参加しました。学生たちがサポート役となり、地区内を散策しながら災害時に崩れそうな石垣や家屋、防災倉庫や避難場所などを探してDITSにアップロード。後日DIMSを使って地区内のハザードマップを制作し、8月24日に開かれた平塚市総合防災訓練の「防災フェア」で展示しました。

※1 **DITS**……情報理工学部情報科学科の内田理教授が中心になって開発した災害情報共有アプリケーション「Disaster Information & Daily Information Tweeting System」の略
※2 **DIMS**……DITSにより投稿された情報を地図上に表示するアプリケーション「Disaster Information Mapping System」の略
※3 **To-Collaboプログラム大学推進プロジェクト「安心安全事業」**……平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択された「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」の一環として実施した取り組み

地まつり探訪記

#04「ひらつな祭」

毎年3月に平塚市の紅谷パールロード・まちかど広場周辺で行われ、東日本大震災の被災地支援と地元の防災力強化をテーマにしているお祭りです。

今号では、2019年の実行委員長を務めた能勢康孝さんと、会場でブースを出展したチャレンジセンター「3.11生活復興支援プロジェクト」の学生・越光蓮さんと久保辰貴さんにインタビューしました！　※肩書、学年は取材（3月）当時

このコーナーでは、東海大生が地域のお祭りやイベントなどで活躍している様子を紹介していきます。

2019年の「ひら

Q3・11生活復興支援プロジェクトは「ひらつな祭」でどのような役割を担っていると思いますか？

実際に被災地に赴いている学生さんからリアルな現場の状況を聞くことができたり、学生ならではのつながりで被災地の学生さんをひらつな祭に呼んでくれたりと、被災地の生の声を届けてくれています。

また、当日の全体設営の力仕事にも進んで協力してくれて、ひらつな祭にはなくてはならない存在です。

Q「ひらつな祭」に出展し、来場者の反応などはいかがでしたか？

越光　2019年には、東北福祉大学と並んでブースを出展し、子どもにも楽しんでもらえるように工夫しました。

「ひらつな祭」には防災に興味がある方はもちろん、祭りとして遊びに来られる方もいらっしゃるので、さまざまな人に被災地の現状や防災・減災を伝えられてよかったです。

Q地域とどのようにかかわっていきたいですか？

越光、久保　来年、2021年は東日本大震災が起こってから10年が経ちます。プロジェクト活動の10年史を制作し、防災について地域の方々に広めていきたいと思います。

Q これから祭りをどんな存在にしていきたいですか？

回を重ねるごとに、被災地支援と地元の防災力の強化が地域に浸透しています。賛同の声やつながりが広がっているのを感じるので、もっと地域の方々や障害を持たれた方々の組織団体ともつながりを深めていきたいと思っています。

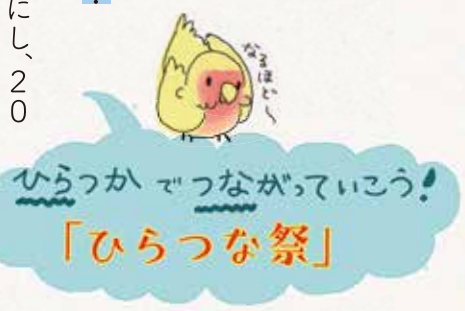
※2020年3月8日に予定されていた「ひらつな祭」は新型コロナウイルス感染症の情勢を考慮し、中止されました。記事内容は2019年のひらつな祭に関して取材・編集しています。

つな祭」の様子

ひらつな祭実行委員長
能勢　康孝さん

Q「ひらつな祭」の開催のきっかけは何ですか？

東日本大震災の想像を絶する悲惨な映像を目にし、20



チャレンジセンター　3・11生活復興支援プロジェクト
越光　蓮さん　工学部建築学科2年
久保　辰貴さん　工学部土木工学科1年

Q プロジェクトの活動テーマは何ですか？

越光　東日本大震災の被災地へ支援をしています。「持続可能な開発のための復興支援」を活動理念に掲げ、被災地の方

大学から地域へ
－教職員による地域貢献－

湘南キャンパス周辺で地域貢献活動に積極的に取り組む、東海大学の教職員・元教職員にスポットを当て“地域人”としての素顔をご紹介！

Close up!

永遠のトコラボシスターズ
いせはらシティプロモーション公認サポーター
蛇田（へびた）　江李（えり）さん

- 富山県出身、神奈川県小田原市在住
- 東海大学大学院 芸術学研究科造型芸術専攻 修了
- 趣味は料理とおいしいものを食べに行くこと

蛇田さんは大学院修了後、５年間大学職員として地域連携活動の広報に携わりました。大学院時代の研究テーマは“伝統工芸”で、小田原の木でベンチを作ったり、小田原提灯を作ったりと、何かと地域とかかわる作品を作っていたそう。しかし、「大学と地域がこんなにも密に活動しているなんて、当時は恥ずかしながら知りませんでした。大学で働きはじめて、いろいろな活動の中にもっとデザインが浸透するといいなと思い、チラシ一つとっても、『お！　なんだろう？』と少しでも気にとめてもらえるよう作ってきたつもりです」と、デザインへの思い入れを語ってくれました。

イベントのチラシやポスターの作成・広報に加えて、2017年度から本紙「ちえん」の発行が始まり、学内外で“連携”することの難しさとうれしさをより感じるようになったといいます。「『ちえん』には多くの自治体や地域の方に登場してもらい、『ちえん川柳』の企画があったころは、学内の他部署の方に選定していただきました。また、学内広しといえどネタを探すのに苦労したり、取材の調整に難航したり、度々パンクする始末でしたが（笑）、徐々に『うちにもちえんを置きたい』という連絡が入るようになり、発行部数も増えました。本当にさまざまな方に助けられてきたんだなと実感しています。完成が楽しみと言っていただけるのが一番うれしかったです」と話します。

「**ト**コラボシスターズのリーダーとしての任は降りることになりましたが、今後もフェイスブックの中ではゆるく投稿したいと思っています。また、２年間担当した伊勢原市には個人的に愛着が沸き、私にも何かできることはないかと思い、市のシティプロモーション公認サポーターに応募しました。これからも身近な地域の中で、デザインを通してつながっていきたいです」とのこと。今後も“へび”の投稿、動向にご注目ください！

● プロフィール

2015年３月に大学院を修了し、東海大学To-Collabo推進室（当時）に広報担当として入職。地域連携センター地域連携課に部署名が変わった後も、大学の地域連携活動をWEBやSNSで発信し、「TOKAIグローカルフェスタ」などイベントのチラシやポスター、本紙「ちえん」の制作を手がけるなど、今年３月に退職を迎えるまで尽力した。地域連携課では、広報担当の女性チーム「トコラボシスターズ」をリーダー“へび”としてけん引。また、伊勢原市との提携事業の窓口も担当し、退職後もいせはらシティプロモーション公認サポーターとして活動する。

『いせはらシティプロモーション公認サポーターの名刺』
肩書きにはトコラボシスターズの文字も！

『個人でも地域の中にデザインを！』
以前のちえんにもこっそり登場していますが、マグネットシート（上）や、とあるカフェのタペストリーも制作したのだそう！

『地域のおいしいものが力に！』
秦野産のフキに栗。夜な夜な皮をむいたりあくをとったりするのがリフレッシュ方法。

つかのはら通信

平塚市、秦野市、伊勢原市の３市（つか・の・はら）において
実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。 ※肩書、学年はイベント実施当時

ひらつか

学生、教員らがボランティア マラソンの運営をサポート

医学部付属病院の医療職者と伊勢原キャンパスの学生、教員らが、昨年12月１日に神奈川県西部湘南・西湘地域で開催された「第14回湘南国際マラソン」に救護班として参加。ボランティアで運営をサポートした。今回は、医師や看護師、理学療法士、救急救命士ら医療スタッフ52名と、看護学科の学生や大学院生、教員16名がランナーらの救護活動に取り組み、本病院の医師らが、「ランドクター」として、一般のランナーとともにコースを走った。

防災の備えを伝える 「コモンズ防災イベント2020冬」に協力

現代教養センターが開講する授業「成し遂げ力演習」と「パブリック・スキル」を履修している学生ら15名が、１月19日に平塚市宮松町の「ららぽーとあおぞら公園」で開催された「コモンズ防災イベント2020冬」に協力した。当日は親子連れなど約120名が来場し、学生たちが３つのブースを設置。「防災クッキング＆クイズ」では、ツナ缶を使ったランプや、ビニール袋に卵液を入れて湯せんで作る卵焼きを実演したほか、地震や台風などで被災した時に役立つ食にまつわるクイズを出題。参加者たちは楽しみながら学びを深めた。

里川づくりを討論 「湘南里川づくりフォーラム2020～金目川水系の今後～」

湘南里川づくりみんなの会がNPO法人東海大学地域環境ネットワークと教養学部人間環境学科自然環境課程との共催で、２月２日に湘南キャンパスで「湘南里川づくりフォーラム2020～金目川水系の今後～」を開催した。当日は、金目川流域で暮らす市民や藤野裕弘教授の研究室に所属する学生ら約90名が参加した。分科会では、「川の水温が上がったらどうなるの？」「子どもが遊べる川づくり」「里川づくりと若者世代」の３テーマで討論。学生たちが企画した「里川づくりと若者世代」では、里川づくりの活動に学生を引き込むための課題と解決策を提示し、ホームページや動画投稿サイトの活用など学生の視点で意見を述べ、参加者と活発な議論を交わした。

はだの

市内の整形外科と健康学部が 包括連携の促進にかかわる協定を締結

健康学部では昨年12月１日に、小田急線東海大学前駅南口にある「医療法人安生会 あべ整形外科」と包括連携の促進にかかわる協定を締結した。今後は共同研究や開発、共同プロジェクトを推進するほか、フィールドワークやインターンシップの受け入れによる教育・人材育成、本学部の教員による講演やワークショップの実施などを計画している。健康マネジメント学科の有賀誠司学科長は、「今後はインターンシップの受け入れをお願いするほか、学科として新しい施設でワークショップなども開催する予定。地域住民の方々の健康づくりに寄与する活動も手がけていきたい」と今後の展望を話した。

多幸願い豆まき 運動部の選手たちが平塚八幡宮の節分祭に参加

湘南キャンパスで活動する運動部の選手たちが２月３日に、平塚八幡宮で開かれた節分祭に参加した。当日は、ラグビーフットボール部の主力として活躍した新井望友選手（体育学部競技スポーツ学科４年）と全日本大学駅伝対校選手権大会で区間賞を獲得した陸上競技部駅伝チームの郡司陽大選手（同）、今夏のユニバーシアード夏季競技大会で日の丸を背負った女子バレーボール部の横田真未選手（同）、女子ハンドボール部に所属し、社会人選手に交じり日本代表に入った渡部真綾選手（同）が参加した。選手たちはそろいの袴に着替えてお祓いを受けた後、大勢の市民に囲まれたステージに登壇。「鬼は外、福は内」のかけ声に合わせて笑顔で豆をまいた。

スポーツ通じて交流 「バスケットボール教室2020」を開催

東海大学チャレンジセンター・スポーツ社会貢献プロジェクトが１月12日に湘南キャンパスの総合体育館で、「バスケットボール教室2020」を開催。男子バスケットボール部と協力して企画し、平塚市・秦野市・伊勢原市のミニバスケットボールチームに所属している小学生ら約100名が参加した。バスケ部員の指導でパスやドリブル、シュートなどの基礎的な動きなどを練習。プロジェクトリーダーの山城洸陽さん（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科３年）は、「スポーツを通して老若男女関係なく楽しめる場をつくることがこのイベントの目的の一つ。バスケに限らず、スポーツを好きになってもらうきっかけになれば」と話した。

留学生を交えた「健康バス測定会」

健康学部健康マネジメント学科の学生12名が、2月4日に秦野市立南公民館で開催した市民向けの「健康バス測定会」で、ロシアからの留学生とともに近隣住民約30名の体組成、骨密度などの測定を行った。今回は東海大学が展開しているロシア人学生向けの中期交換留学プログラム（※）に参加しているワシレフ・アレクセイさん（極東連邦大学）とグラドフ・ボクダンさん（モスクワ高等経済学院）も参加し、学生とともに測定に取り組んだ。

※文部科学省の平成29年度「大学の世界展開力強化事業」の採択を受けて展開している「ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成：主に極東地域の経済発展を目的として」の一環で実施しているプログラム

いせはら

学生がデザイン　市制施行50周年記念ロゴマーク

教養学部芸術学科デザイン学課程の池村明生教授のゼミに所属する北村亜己さん（３年）が、神奈川県伊勢原市の市制施行50周年を記念するロゴマークをデザインし、２月４日に伊勢原市役所で高山松太郎市長を表敬訪問した。北村さんは、伊勢原市の特色を表現したポイントや色使いのこだわりを説明。高山市長は、「来年３月から始まる記念事業のイベントなどで使用するので、ぜひ伊勢原に足を運んでください」と話した。ロゴマークは今後、市内各所の施設やイベント会場ののぼり旗などで使用される予定。

「認知症と運転」をテーマに　認知症研修会を開催

医学部付属病院が２月４日に伊勢原キャンパスで、「令和元年度認知症研修会」を開催した。今回は「認知症と運転」をテーマに、医師や自動車メーカーの研究者、警察職員が講演。学生や教職員をはじめ近隣の住民や医療従事者、地方公共団体の福祉担当者ら約170名が参加した。本病院の認知症疾患医療センターの瀧澤俊也センター長（医学部副学部長・内科学系神経内科学）による開会のあいさつに続き、慶應義塾大学医学部教授の三村將氏（精神・神経科学）が「認知症と自動車運転」をテーマに基調講演した。参加者からは、「法制度や運転技能の評価方法、相談窓口などがわかってよかった。家族できちんと話し合おうと思います」といった感想が聞かれた。

フレイル対策を学ぶ 病院ボランティアプロジェクトが医療セミナー

東海大学チャレンジセンター・病院ボランティアプロジェクトが２月15日に伊勢原キャンパスで、第17回医療セミナー「自分で決める健康寿命 フレイルを知ろう」を開催した。今回は、健康学部健康マネジメント学科の遠藤慎也助教が講演。近隣住民ら多数が聴講した。遠藤助教は日本における少子高齢化の現状と未来について説明し、介護に頼らず自立した生活ができる「健康寿命」延伸の重要性を指摘。身体的機能や認知機能が低下し、健康な状態と要介護状態の中間にある「フレイル」について、身体的、社会的、精神・心理的側面から解説したほか、厚生労働省が作成した基本チェックリストなどを用いた簡易的なフレイルの判定方法についても紹介した。

チャレンジセンターNews

ライトパワープロジェクトの電気自動車チーム 電気自動車大会に向けて調整中

東海大学チャレンジセンター・ライトパワープロジェクトの電気自動車チームが、秋田県大潟村ソーラースポーツラインで開催される電気自動車のレース「ワールド・エコノ・ムーブ2020」への出場に向けて、電気自動車の早朝試走を重ねている。ドライビングテストや車両整備等にチーム一丸となって取り組み、優勝を目指す。ドライバーの石原悠史さん（工学部機械工学科2年）は「これまで先輩方が作ってきた記録に恥じないような走りをすることで、仲間たちが時間をかけて整備・準備してきた車体を乗りこなし、好成績を収めることで恩返しをしたいと思います」と意気込みを語った。

※同大会は5月４、５日の開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて9月20、21日に延期となった。

電気自動車「ファラデー・マジック2」の試走

Vol.4

学びたいときが、まなびどき

生涯学習講座

東海大学地域連携センターの「生涯学習講座」を大解剖！
毎回ユニークな講座をピックアップしてその魅力に迫ります！

ジャズを聴く～高音質オーディオで聴くジャズスタンダード～

「JAZZ×人×地域」

「ジャズ」と聞くと敷居が高くて、あまり向き合ったことがないのではないでしょうか？ ジャズは歴史がありながら、時代とともに変化してきたジャンルです。講座内では毎回1曲につき、時代やジャンルのアレンジを7～8種類ほどレコードを聴き比べて、ジャズの厚みと深さを探求します。

田丸先生からの一言

ジャズがさまざまな地域に広がるとともに、たくさんの人とつながることを楽しみにしています。

講師：田丸（たまる） 智也（ともや）
東海大学高輪教養教育センター准教授

こんな方が受講しています！

◉ジャズに興味がある方
◉ジャズが初心者の方

ジャズ講座はたくさんの方にリピーターとして参加していただいています。

アナログレコードは、東海大学図書館所蔵の牧田清志（＝ジャズ評論家「牧芳雄」）コレクションの貴重な音源で、特別な許可を得て使用します。
（※一般の貸し出しは行っていません）

受講生のコメント

- 歴史を理解したうえでそれぞれの時代の音楽を聴けることが醍醐味です。
- わかりやすくジャズを解説してくれるので初心者の私でも楽しめました。
- 同じ曲をさまざまなバージョンで聴く機会はなかなかないので、いつも楽しみにしています。

お申し込み・お問い合わせ

詳しくは、地域連携センター生涯学習講座のWEBサイトをご覧ください！

http://ext.tokai.ac.jp

Information

学生が「秦野水道130周年」を記念したペットボトルラベルをデザインしました

教養学部芸術学科デザイン学課程の池村明生教授のゼミに所属する中込彩希さん（3年次生＝当時）が、秦野市が販売する「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」のペットボトルラベルをデザインしました。2月21日に秦野市役所で開かれた月例市長記者会見内で発表されました。今年3月15日に、秦野水道（旧曽屋水道）が竣工・給水を開始してから130周年の節目を迎えることを記念した取り組みです。

記念ラベルのボトルは10万本製造され、7月から来年3月まで市内外の店舗や自動販売機、市内で行われるイベントなどで販売されます。

2019年度秋学期学位記授与を執り行いました

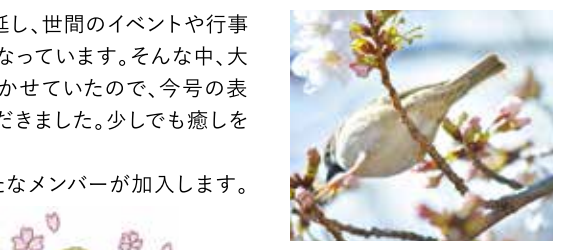
湘南キャンパスで3月24、25の両日、2019年度秋学期の学位記授与を執り行いました。例年、本学では学位記授与式の式典を挙行していますが、今年度は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて大規模な式典を中止しました。24日には各研究科が大学院の学位記を、25日は、午前に理工系学部、午後に文系学部を中心として学位記を授与。各学部では学科ごとに教室を使用して実施しました。

教養学部芸術学科デザイン学課程での学位記授与の様子

シスターズ編集後記

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、世間のイベントや行事などは自粛せざるを得ない状況となっています。そんな中、大学内の桜が今年もきれいに花を咲かせていたので、今号の表紙でその様子をお伝えさせていただきました。少しでも癒しを感じていただけたら幸いです。

次号はトコラボシスターズに新たなメンバーが加入します。乞うご期待！
（トコラボシスターズ・いんこ）



表紙撮影中のスズメさん。ひょい、と軽快なステップで枝に飛び乗っていました。

「ちえん」設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館など約60カ所で配付中！

本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。

TEL：0463-50-2406
E-mail：chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

WEB

東海大学のさまざまな地域連携活動の情報や、ちえんバックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください！

WEBサイト

URL：https://coc.u-tokai.ac.jp

facebook

トコラボシスターズ：大学と地域をつなぐ3人娘（へび・いんこ・ひつじ）とマネージャー（ふくろう）が奮闘中！ Follow me！

トコラボシスターズ

トコラボシスターズ　検索

ご意見・ご感想をお聞かせください

地域連携紙「ちえん」についてのご意見・ご感想など、お気軽にご投稿ください。
詳しくは右記QRコードからアクセスし、WEBサイトをご覧ください。
東海大学地域連携センター地域連携課宛にメールでも随時受付中。

東海大学地域連携センター地域連携課
E-mail：chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

地域連携紙「ちえん」次号は7月発行の予定です。

東海大学
Think Ahead, Act for Humanity